

厚生労働科学研究費補助金

エイズ対策政策研究事業

オリンピック・パラリンピック・万博等の外国人の流入を伴うイベントの開催に伴う性感染症のまん延を防ぐための介入方法の確立と
国際協力に関する研究

令和4年度 総括・分担研究報告書

研究代表者 田沼 順子

令和5(2023)年3月

目次

I. 総括研究報告

領域横断的な性感染症対策に関する研究

田沼 順子・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P3-8

II. 分担研究報告

1. 訪日外国人へのセクシャル・ヘルス関連情報の提供に関する研究

杉浦 康夫・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P9-10

2. エイズ対策に関する政策評価に関する研究

Stuart Gilmour・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P11-17

III. 研究成果の刊行に関する一覧表・刊行物・・・・・・・・・・・・ P18

厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策政策研究事業）

I. 総括研究報告

オリンピック・パラリンピック・万博等の外国人の流入を伴うイベントの開催に伴う性感染症のまん延を防ぐための介入方法の確立と国際協力に関する研究

研究代表者：田沼 順子

（国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センター医療情報室長）

【要旨】本研究班は、訪日外国人に対する効果的な性感染症対策の検討と、エイズ対策分野における国際連携推進に関する研究の2つを主軸とする。2022年度は、1. 領域横断的な性感染症対策に関する研究、2. 訪日外国人へのセクシャル・ヘルス関連情報の提供に関する研究、3. エイズ対策に関する政策評価に関する研究、の3つの課題に取り組んだ。課題1ではFast Track Citiesのネットワークを活用し、海外のエイズ対策のベストプラクティスについて情報収集を行った。課題2では、経口避妊薬やセクシャルマイノリティといった、より広いセクシャル・ヘルスに関する話題が関心をひくことや、多言語、特にベトナム語ページのニーズが高いことが分かった。課題3では、UNAIDSの方針に基づき、Global AIDS Monitoringへの日本での95-95-95の推計方法の確立に貢献した。感度分析では、ART実施者数の推計や、国内で感染した者と海外で感染した者についての年齢別分布に関する推計の2点が今後の課題と考えられた。

A. 研究目的

オリンピック・パラリンピック競技大会（以下オリンピック）や万国博覧会（以下、万博）のような国際的イベントは、様々な感染症拡大のリスクと考えられている(WHO. Communicable disease alert and response for mass gatherings. 2008; Abubakar I, Lancet Infect Dis 2012)。一方、2012年ロンドンオリンピックではセクシャル・ヘルス関連の人的交流がさかんに行われ、同市のHIV対策に大きく貢献し2018年までの5年間で男性同性間の新規HIV感染者は40%も減少した(Lorenc A, J Public Health. 2015; Public Health England. Progress towards ending the HIV epidemic in the United Kingdom. 2018)。性感染症の予防啓発事業には複数の学問領

域にわたる多角的アプローチが必要であり、国際的イベントを人的交流促進かつ社会の関心を惹起する好機ととらえ、性感染症対策を強化することは有効である。

また、梅毒の国内届出数は2014年頃から急増しており、COVID-19流行下でも高く推移している。COVID-19流行により観光目的で訪日する外国人の数が一時的に減っているとはいえ、留学・就業目的で長期滞在している外国人は増えており、セクシャル・ヘルスの分野においても、多言語による対応力を高めておくことは必要である。

国立国際医療研究センターは、HIV・肝炎・結核対策に取り組む都市の国際的なパートナーシップFast Track Cities Initiatives推進での協力について、2020年国連合同エイ

ズ計画(以下 UNAIDS)と覚書を締結した。Fast Track Cities Initiatives は、各都市の性感染症対策を知る上で、極めて有効なプラットフォームであり、平時はもちろん、国際的イベント開催時や移民への対策についてもベストプラクティスを共有することができる。

Global AIDS Monitoring は、UNAIDS が毎年実施する国別調査で、その国でのエイズ対策の進達状況を数十の疫学指標と政策に関する質問で構成される。いわゆる 95-95-95 ケアカスケードの達成度や、政策立案・実行過程において市民参画の度合いなどが含まれる。COVID-19 流行により各国のエイズ対策が停滞している今、国際的な指標でエイズ対策の進達状況を評価することは重要である。

これらの背景をふまえ、本研究では1. 領域横断的な性感染症対策に関する研究、2. 訪日外国人へのセクシャル・ヘルス関連情報の提供に関する研究、3. エイズ対策に関する政策評価に関する研究、の3つの課題に取り組み、最終的に日本のエイズ・政策を評価・政策提言を行うことを目的とする。

B. 研究方法

本研究は、課題1. 領域横断的な性感染症対策に関する研究、課題2. 訪日外国人へのセクシャル・ヘルス関連情報の提供に関する研究、課題3. エイズ対策に関する政策評価に関する研究、3つの課題から構成される。

1) 領域横断的な性感染症対策に関する研究

Fast-track Cities Initiatives のネットワークを通じ、世界の各都市におけるエイズ・性感染症対策について情報収集・分析を行う。特

に、過去に国際的大規模イベントが開催された際に行われた領域横断的な性感染症対策について情報収集する。これらの海外の対策と日本の施策を比較・分析する。

2) 訪日外国人へのセクシャル・ヘルス関連情報の提供に関する研究

研究班が開発しているセクシャル・ヘルス関連の情報発信サイト Tokyo Sexual Health (<http://www.tsh.ncgm.go.jp/en/index.html>) の多言語化をはかり、視聴者の属性などウェブサイトのアクセス情報を解析し、グローバル化時代の効果的な性感染症予防啓発の手法の開発に貢献する。

3) エイズ対策に関する政策評価に関する研究

学術文献・公的機関の報告書・レセプトデータなど、公開されているデータを活用し、日本のエイズ対策について、UNAIDS の Global AIDS Monitoring で定義される各種指標を評価する。

(倫理面への配慮)

本研究は、ヘルシンキ宣言に基づく倫理的原則に則り、厚生労働省・文部科学省が定めた「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」および「個人情報の保護に関する法律」および「国立研究開発法人国立国際医療研究センターの保有する個人情報の保護に関する規定」を遵守して実施した。

C. 研究結果

1) 領域横断的な性感染症対策に関する研究(分担研究者: 田沼順子)

2021年度に引き続き、①エイズ政策の国際比較と日本の課題抽出、②セクシャル・ヘルス推進に取り組む医療機関と支援団体のネットワーク構築の2つを目的と

し、2022年11月16日（水）に日本エイズ学会と国際エイズケア提供者協会（IAPAC）と Fast Track Cities Workshop Japan を共催した。会場およびオンライン聴講のハイブリッドで開催され、計83名が参加した。海外からは以下の5名の演者をお招きした。

・ Yuki Takemoto 氏（Country Director for Pakistan and Afghanistan. The Joint United Nations Programme on HIV/AIDS）世界の HIV 対策への UNAIDS の取り組みの概要と、コミュニティへの支援につきご講演頂いた。

・ Goncalo Lobo 氏（Vice President, Fast-Track Cities Institute）Fast Track Cities Initiative の取り組みを紹介した上で、日本加盟のメリットについて解説頂いた。本パートナーシップへの加盟は、国内 HIV 対策に重要かつポジティブな効果をもたらすものであり、世界の様々な都市や国際組織との強力なパートナーシップが、日本の HIV 対策の可能性を広げると考えられる。

・ Siobhan Crowley 氏（動画出演）（Head of HIV/AIDS team, Technical Advice and Partnerships Department, The Global Fund to Fight AIDS, Tuberculosis and Malaria）Global Fund が HIV 対策で取り組む上で、重要視している点をご講演頂いた。

・ Matthew Vaughan 氏（Director, HIV and Sexual Health Division, ACON）ACON は 1985 年からオーストラリアを拠点としてセクシャル・ヘルスの取り組みを行う市民団体で、同単団体取り組む HIV 対策のベストプラクティスを紹介頂いた。

・ Deborah Gold 氏（オンライン出演）（Chief Executive, National AIDS Trust）英国の NPO、National AIDS Trust がいかに政府と協働しているかを発表頂いた。

海外演者に続き、国内の市民団体の代表者らを招き「HIV 対策の歴史から学ぶ」と題したパネルディスカッションを2つ実施した。市民団体や会場からは、HIV 対策で培われた政策立案や実装における市民参画の経験をどのように他の感染症対策に生かすかという意見や、限られた人的リソースと予算では効果に限界があるが、その責任を市民団体に転嫁することがあってはならない等の意見が出た。このほか UNAIDS 事務局次長 Eamonn Murphy 氏の東京訪問にあわせ、2022年11月17日に日本の市民団体と Eamonn 氏を交えた懇談会を開催し、更なる意見交換を行った。

また、2022年12月に開催された第51回 UNAIDS プログラム調整委員会（Programme Coordinating Board）に日本代表団の一員として出席したほか、2022年10月の Fast Track Cities Conference に招聘演者として参加し、各国のエイズ対策についての情報収集や日本のエイズ対策の現状について発表を行った。

これらの会議で得られた論点をふまえ、日本のエイズ政策の課題や今後必要な施策の提言を報告書にまとめる。

そのほか、複合的予防策の実装度と将来の HIV 感染者動向についての数理モデル研究を行い医学誌（Wang et al. Lancet Reg Health West Pac. 23: 100467, 2022）や学会での発表や、他の研究班（塩野班、松岡班）と合同班会議を実施して広く情報

共有を行った。

2) 訪日外国人へのセクシャル・ヘルス関連情報の提供に関する研究 (分担研究者: 杉浦康夫)

2020年6月1日に東京2020公認プログラムとして運営を開始した多言語の性感染症情報発信サイト Tokyo Sexual Health <http://www.tsh.ncgm.go.jp/en/index.html> のコンテンツについて、既存の英語 (2020年設置)・中国語 (繁体字・簡体字)・ベトナム語・タイ語に加え (2021年設置)、ネパール語とスペイン語の翻訳を行った。また、セクシャル・ヘルスに関する市民団体の取り組みを取材し同ウェブサイトに掲載した。

Google アナリティクスによる閲覧分析では、昨年中国語・ベトナム語・タイ語ページを設置した直後より、閲覧数がそれまでの数十件/日から約500件/日と急激に増えていることが分かった。日本語・英語に続いて最も閲覧された言語サイトはベトナム語で、中国語 (簡体字) が続いた。最も閲覧数の多かったページは「経口妊娠中絶薬」で、「セクシャリティとは?」が続いた。

3) エイズ対策に関する政策評価に関する研究 (分担研究者: Stuart Gilmour、田沼順子)

昨年度に引き続き、国連合同エイズ計画の世界的 HIV 疫学調査である Global AIDS Monitoring の疫学指標を精査し、日本からの報告法について検討を行った。Global AIDS Monitoring は、① HIV 罹患率やケアカスケード達成率 (いわゆる 95-95-95 指標) に関する疫学推計、② 各種国別指標 (その他の疫学指標)、③ 政策に関

する質問 (National Commitments and Policy Instrument, NCPI)、④ 薬剤と検査に関する質問、⑤ その他記述報告

(Narrative reports) に大別される。本研究では、これらの調査の日本での進め方について課題や手順の整理を行った。

① HIV 罹患率やケアカスケード達成率 (いわゆる 95-95-95 指標) については、UNAIDS が開発したソフトウェア Spectrum に搭載されている AIDS Impact Model を用いて算出することになっている。Spectrum を用いて日本の HIV ケアカスケード推計する際の手順をまとめ、最も適した設定を見出すための感度分析を行った。Spectrum に搭載されているいくつかのモデルのうち、UNAIDS のガイダンスに従って Case surveillance and vital registration (以下 CSAVR) を選択した。CSAVR では、国内で感染した者と海外で感染した者を区別することが求められたが、それぞれの年齢別人数が不明であったため、仮に外国籍の患者を移民と設定して感度分析を行った。その結果、推定生存 HIV 感染者数は、2021 年末で 29,416 人、推定 HIV 感染診断後人数は 28,903 人であった② その他の疫学指標については、日本が優先して報告すべき 14 項目を選出した。これらの結果を厚生労働省エイズ動向委員会に参考資料として提出する予定である。

政策に関する質問 (NCPI) は、政府が回答する Part A と市民団体が回答する Part B に分かれているが、今年度は質問をすべて日本語に翻訳し、2023 年 3 月までに 3 つの市民団体に Part B の回答を頂いた。

D. 考察

課題1ではFast Track Citiesのネットワークを活用し、海外のエイズ対策について効率よく情報収集することができた。日本ではCOVID-19流行後から保健所等でのHIV検査件数が激減しており、海外で広く普及している郵送検査の積極的活用を急ぐ必要がある。日本の自治体がFast Track Citiesに加盟すると、そのような新しい施策の実装が進むものと考えられる。

課題2では、経口避妊薬やセクシャルマイノリティといった、より広いセクシャル・ヘルスに関する話題が関心をひくことや、多言語、特にベトナム語ページのニーズが高いことが分かった。社会全体で性の健康に関する意識を高め、セクシャルマイノリティへの理解やHIV感染者に対する差別をなくすためには、広いテーマを扱い、幅広い層の視聴者を獲得していくことが重要と考えられる。

課題3では、UNAIDSの方針に基づき、Global AIDS Monitoringへの日本での95-95-95の推計方法の確立に貢献した。感度分析では、ART実施者数の推計や、国内で感染した者と海外で感染した者についての年齢別分布に関する推計の2点が今後の課題と考えられた。

E. 結論

COVID-19流行により各国のエイズ対策が停滞している今、エイズ対策の進達・実装状況を評価し、改善のための提言を行うことは極めて重要である。今後も、国際的な指標による政策評価と提言作成を進めていく。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

田沼 順子

原著論文による発表

欧文

1. Rupasinghe D, Choi JY, Yunihastuti E, Kiertiburanakul S, Ross J, Ly PS, Chaiwarith R, Do CD, Chan YJ, Kumarasamy N, Avihingsanon A, Kamarulzaman A, Khusuwan S, Zhang F, Lee MP, Van Nguyen K, Merati TP, Sangle S, Oon Tek N, **Tanuma J**, Ditangco R, Sim BLH, Pujari S, Jiamsakul A. Factors associated with high alanine aminotransferase (ALT) and cirrhosis in people living with HIV on combination antiretroviral treatment (cART) in the Asia-Pacific. *J Med Virol.* 94: 5451-5464, 2022.
2. Teeraananchai S, Law M, Boettiger D, Mata N, Gupte N, Chan YL, Pham TN, Chaiwarith R, Ly PS, Chan YJ, Kiertiburanakul S, Khusuwan S, Zhang F, Yunihastuti E, Kumarasamy N, Pujari S, Azwa I, Somia IKA, **Tanuma J**, Ditangco R, Choi JY, Ng OT, Do CD, Gani Y, Ross J, Jiamsakul A. Virological failure and treatment switch after ART initiation among people living with HIV with and without routine viral load monitoring in Asia. *J Int AIDS Soc.* 25: e25989, 2022.
3. Khuon D, Rupasinghe D, Saphonn V, Kwong TS, Widhani A, Chaiwarith R, Ly

- PS, Do CD, Avihingsanon A, Khusuwan S, Merati TP, Van Nguyen K, Kumarasamy N, Chan YJ, Azwa I, Ng OT, Kiertiburanakul S, **Tanuma J**, Pujari S, Ditangco R, Zhang F, Choi JY, Gani Y, Sangle S, Ross J, Gorbach PM, Jiamsakul A. BMI as a predictor of high fasting blood glucose among people living with HIV in the Asia-Pacific region. *HIV Med.* 2022. doi: 10.1111/hiv.13351. Epub ahead of print.
4. Wang Y, **Tanuma J**, Li J, Iwahashi K, Peng L, Chen C, Hao Y, **Gilmour S**. Elimination of HIV transmission in Japanese MSM with combination interventions. *Lancet Reg Health West Pac.* 23: 100467, 2022.
5. Kim JH, Jiamsakul A, Kiertiburanakul S, Huy BV, Khusuwan S, Kumarasamy N, Ng OT, Ly PS, Lee MP, Chan YJ, Gani YM, Azwa I, Avihingsanon A, Merati TP, Pujari S, Chaiwarith R, Zhang F, **Tanuma J**, Do CD, Ditangco R, Yunihastuti E, Ross J, Choi JY; IeDEA Asia-Pacific. Patterns and prognosis of holding regimens for people living with HIV in Asian countries. *PLoS One.* 17: e0264157, 2022.
6. Han WM, Law MG, Choi JY, Ditangco R, Kumarasamy N, Chaiwarith R, Ly PS, Khusuwan S, Merati TP, Do CD, Yunihastuti E, Azwa I, Lee MP, Pham TN, Chan YJ, Kiertiburanakul S, Ng OT, **Tanuma J**, Pujari S, Zhang F, Gani Y, Mave V, Ross J, Avihingsanon A. Weight changes, metabolic syndrome and all-cause mortality among Asian adults living with HIV. *HIV Med.* 23: 274-286, 2022.
- Stuart Gilmour
 原著論文による発表
 欧文
1. Wang Y, **Tanuma J**, Li J, Iwahashi K, Peng L, Chen C, Hao Y, **Gilmour S**. Elimination of HIV transmission in Japanese MSM with combination interventions. *The Lancet Regional Health-Western Pacific.* 23: 100467, 2022.
2. **Gilmour S**, Li J, Wang Y, Gu J, Lau JT. Time to consider elimination of HIV in China. *The Lancet Regional Health-Western Pacific.* 24: 100497, 2022.
3. Yoneoka D, Eguchi A, Nomura S, Kawashima T, Tanoue Y, Murakami M, Sakamoto H, Maruyama-Sakurai K, **Gilmour S**, Shi S, Kunishima H, Kaneko S, Adachi M, Shimada K, Yamamoto Y, Miyata H. Identification of optimum combinations of media channels for approaching COVID-19 vaccine unsure and unwilling groups in Japan. *Lancet Reg Health-West Pac.* 18:100330, 2022.
- H. 知的財産権の出願・登録状況
 なし
 (以上)

III. 研究成果の刊行に関する一覧表・刊行物

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Rupasinghe D, Choi JY, Yunihastuti E, Kiertiburanakul S, Ross J, Ly PS, Chaiwarith R, Do CD, Chan YJ, Kumarasamy N, Avihingsanon A, Kamarulzaman A, Khusuwan S, Zhang F, Lee MP, Van Nguyen K, Merati TP, Sangle S, Oon Tek N, Tanuma J , Ditangco R, Sim BLH, Pujari S, Jiamsakul A	Factors associated with high alanine aminotransferase (ALT) and cirrhosis in people living with HIV on combination antiretroviral treatment (cART) in the Asia-Pacific	J Med Virol	94	5451-5464	2022
Teeraananchai S, Law M, Boettiger D, Mata N, Gupte N, Chan YL, Pham TN, Chaiwarith R, Ly PS, Chan YJ, Kiertiburanakul S, Khusuwan S, Zhang F, Yunihastuti E, Kumarasamy N, Pujari S, Azwa I, Somia IKA, Tanuma J , Ditangco R, Choi JY, Ng OT, Do CD, Gani Y, Ross J, Jiamsakul A	Virological failure and treatment switch after ART initiation among people living with HIV with and without routine viral load monitoring in Asia.	J Int AIDS Soc	25	e25989	2022
Khuon D, Rupasinghe D, Saphonn V, Kwong TS, Widhani A, Chaiwarith R, Ly PS, Do CD, Avihingsanon A, Khusuwan S, Merati TP, Van Nguyen K, Kumarasamy N, Chan YJ, Azwa I, Ng OT, Kiertiburanakul S, Tanuma J , Pujari S, Ditangco R, Zhang F, Choi JY, Gani Y, Sangle S, Ross J, Gorbach PM, Jiamsakul A	BMI as a predictor of high fasting blood glucose among people living with HIV in the Asia-Pacific region.	HIV Med	24	139-152	2023
Wang Y, Tanuma J , Li J, Iwashashi K, Peng L, Chen C, Hao Y, Gilmour S	Elimination of HIV transmission in Japanese MSM with combination interventions	Lancet Reg Health West	23	100467	2022
Kim JH, Jiamsakul A, Kiertiburanakul S, Huy BV, Khusuwan S, Kumarasamy N, Ng OT, Ly PS, Lee MP, Chan YJ, Gani YM, Azwa I, Avihingsanon A, Merati TP, Pujari S, Chaiwarith R, Zhang F, Tanuma J , Do CD, Ditangco R, Yunihastuti E, Ross J, Choi JY	IeDEA Asia-Pacific. Patterns and prognosis of holding regimens for people living with HIV in Asian countries	PLoS One	17	e0264157	2022
Han WM, Law MG, Choi JY, Ditangco R, Kumarasamy N, Chaiwarith R, Ly PS, Khusuwan S, Merati TP, Do CD, Yunihastuti E, Azwa I, Lee MP, Pham TN, Chan YJ, Kiertiburanakul S, Ng OT, Tanuma J , Pujari S, Zhang F, Gani Y, Mave V, Ross J, Avihingsanon A	Weight changes, metabolic syndrome and all-cause mortality among Asian adults living with HIV	HIV Med	23	274-286	2022
Gilmour S , Li J, Wang Y, Gu J, Lau JT	Time to consider elimination of HIV in China	Lancet Reg Health West	24	100497	2022
Yoneoka D, Eguchi A, Nomura S, Kawashima T, Tanoue Y, Murakami M, Sakamoto H, Maruyama-Sakurai K, Gilmour S , Shi S, Kunishima H, Kaneko S, Adachi M, Shimada K, Yamamoto Y, Miyata H	Identification of optimum combinations of media channels for approaching COVID-19 vaccine unsure and unwilling groups in Japan	Lancet Reg Health West	18	100330	2022

厚生労働大臣

機関名 国立国際医療研究センター

所属研究機関長 職 名 理事長

氏 名 国土 典宏

次の職員の（元号） 年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 エイズ対策政策研究事業

2. 研究課題名 オリンピック・パラリンピック・万博等の外国人の流入を伴うイベントの開催に伴う

性感染症のまん延を防ぐための介入方法の確立と国際協力に資する研究（21HB1009）

3. 研究者名（所属部署・職名） エイズ治療・研究開発センター 医療情報室長

（氏名・フリガナ） 田沼 順子・タヌマ ジュンコ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（※3）	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	国立国際医療研究センター	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること （指針の名称： ）	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査の場合は、その理由を記載すること。

（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> （無の場合はその理由： ）
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> （無の場合は委託先機関： ）
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> （無の場合はその理由： ）
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> （有の場合はその内容： ）

（留意事項） ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣

機関名 国立国際医療研究センター

所属研究機関長 職 名 理事長

氏 名 国土 典宏

次の職員の（元号） 年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 エイズ対策政策研究事業

2. 研究課題名 オリンピック・パラリンピック・万博等の外国人の流入を伴うイベントの開催に伴う

性感染症のまん延を防ぐための介入方法の確立と国際協力に資する研究（21HB1009）

3. 研究者名（所属部署・職名） 国際診療部部長

（氏名・フリガナ） 杉浦 康夫 ・ スギウラ ヤスオ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（※3）	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	国立国際医療研究センター	<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること （指針の名称： ）	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査の場合は、その理由を記載すること。

（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> （無の場合はその理由： ）
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> （無の場合は委託先機関： ）
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> （無の場合はその理由： ）
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> （有の場合はその内容： ）

（留意事項） ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

厚生労働大臣 殿

機関名 聖路加国際大学

所属研究機関長 職 名 学 長

氏 名 堀内 成子

次の職員の令和4年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 エイズ対策政策研究事業
2. 研究課題名 オリンピック・パラリンピック・万博等の外国人の流入を伴うイベントの開催に伴う
性感染症のまん延を防ぐための介入方法の確立と国際協力に関する研究
3. 研究者名 (所属部署・職名) 公衆衛生大学院 ・ 教授
(氏名・フリガナ) ギルモア スチュアート(ギルモア スチュアート)

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称：)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」、「臨床研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由：)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関：)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由：)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容：)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。